



講師の安西慶三先生

新規透析患者に占める糖尿病性腎症 4年でマイナス13.4%(佐賀県)

佐賀県糖尿病性腎症重症化予防対策

1月30日(火)佐賀市アバンセにて、安西慶三先生(佐賀大学医学部内科学講座 肝臓・糖尿病・内分泌内科教授)を講師に、医科研究会「佐賀県糖尿病性腎症重症化予防対策の現状と展望」を開催し、19医療機関より47名の参加がありました。以下、参加者からの報告です。

1月30日、「佐賀県糖尿病性腎症重症化予防対策の現状と展望」と題して、佐賀大学医学部肝臓・糖尿病・内分泌内科教授の安西慶三先生の講演会がありましたので報告します。

平成24年度の厚労省の調べでは糖尿病医療全体における糖尿病を原疾患とする透析患者の医療費の割合は35%(6600億円)に上ります。全糖尿病患者のわずかに4%に当たる透析患者に、対して多額の医療費が必要となっている現状があるため、透析導入数を減らすあるいは遅らせるような糖尿病の治療介入ができれば、それだけ患者の生命予後改善やQOLの維持と同時に医療費の抑制も期待できるとの事でした。

それは、大病院で紹介患者さんを持つているのでは遅く、市中の医療機関での早期の腎臓専門医への紹介や、健診未受診の方や健診異常があり医療機関未受診の方などへの早期の働きかけが必要と考えられます。

佐賀県では県医師会、糖尿病対策推進会議、保険者協議会、県の三者で協議して「佐賀県糖尿病性腎症重症化予防プログラム」を策定し重症化予防対策を講じています。また、「佐賀県健康増進課」の「ストップ糖尿病」対策会議とも連携し、新規透析導入患者の20%減少を当面の目標として看護師と保健師協働の地域医療連携を行い、受診中断患者や健診後未受診患者



発行所 佐賀県保険医協会 佐賀市駅前中央1-9-45 (三井生命ビル4F) 電話 0952(29)1933 FAX 0952(23)5218 HP http://saga-doc.jp hoken-i@star.saganet.ne.jp 購読料 1部 200円 送料込 年間2,400円 (会員の購読料は会費に含まれています)

新点数説明会のご案内

会員参加費無料

4月1日からの診療報酬改定に当たり、下記の通り説明会を開催いたします。ご案内チラシ等を同封しておりますので、詳細はチラシにてご確認ください。

歯科 3月18日(日) 18:15~20:40
ムートプラザ佐賀(佐賀勤労者総合福祉センター)多目的ホール
佐賀市兵庫北3丁目8-40 ☎0952-33-0003

医科 3月23日(金) 19:00~21:00 外来/21:00~21:40 入院
(佐賀会場) 佐賀市文化会館 中ホール
佐賀市日の出1-21-10 ☎0952-32-3000

医科 3月24日(土) 15:00~15:30 病院入院/15:30~16:00 診療所入院/
16:10~18:10 外来
(唐津会場) 唐津市文化体育館 文化ホール
唐津市和多田土井1-1 ☎0955-73-2888

※できる限り事前の参加申し込みをお願いします。 ※協会未入会の先生は、事前に入会手続きの上ご参加ください。

2018年診療報酬改定関連書籍です。会員には一冊無料でお渡しいたします。

歯科
2017年10月版
歯科点数早見表
ブリッジ保険適用
会員価格: 500円 (定価: 1,000円)
※写真は2017年10月版

歯科
2018年改定の要点と解説
歯科診療報酬・介護報酬
2018年改定の要点と解説
会員価格: 2,000円 (定価: 4,000円)

医科
2016年11月版
歯科診療報酬
早見表病用
会員価格: 500円 (定価: 1,000円)
※写真は2016年版

医科
2018年4月
点数表改定のポイント
会員価格: 2,500円 (定価: 5,000円)

協会会員数
医科 658人
歯科 331人
合計 989人
(1月31日現在)

主な記事

- ・ 歯科研究会「インプラント治療とインプラント周囲疾患!!」... 2面
- ・ 保団連第48回定期大会... 3面
- ・ 第34回福岡国税局との懇談報告... 4面
- ・ 学校歯科治療調査結果... 5面
- ・ 労務管理「『突然の退職、緊急の求人、誰でも採用するしかない』を繰り返さないために」... 8面

見るともなしに見ていたテレビから、「大鹿業時代」から「大鹿継承時代」へとという言葉が聞こえてきた。ちょっとその特集は終わってしまおうと、詳しくは分からなかったけれど、調べてみた。▼少子高齢化の波は経営者にも押し寄せており、倒産件数は2008年以降、下降線を描く一方で、休業業や解散は増加傾向となっている。中小企業白書2017年版では、10年前に比べ休業業解散の伸び幅が、一番大きかったのは一般診療所、歯科診療所は5位とあった。これには衝撃を受けた。私には後継者も子供もないが、どの医院も大概親子継承をするだろうと周囲を見て思っていたからだ。▼合点がいかず、さらに調べてみた。2025年に中小企業年齢層を迎えるリタイア適齢期者約245万人のうち約半数にあたる127万人が後継者が決まっていないという。実際、廃業予定企業の理由の約30%が「後継者難」と回答している。細かくは、「子供にその意思がない」「子供がいない」「適当と思える者がいない」と残念な理由が並んでいた。しかし、医療機関の休業業と大きな影響を及ぼすと考えられる、というの、われわれは地域住民の健康維持のみならず学校医、学校歯科医として地域社会での役割も担っているから、かつて経営者に求められていたものは、まずは経営手腕であったろうが、これからはそれに加えて、将来設計をする眼力と決断力が不可欠といえよう、ハッピーリタイアを迎えるために。(かうけんバス)